

ノイエスだより

ノイエス朝日(朝日印刷工業株式会社)
群馬県前橋市元総社町七三-15
TEL 027-2555-3434
FAX 027-2555-3435
http://www.neues-asahi.jp

今年には花見をしないうちに桜が散ってしまいました。家のそばの公園に樹齢30代の見頃の桜の木がたくさん植わっているので、花見宴会とまではいかなくても毎年散歩に行ったり、幹のふもとでお弁当を食べたりしていました。10年前くらいにふと思いついて「夜桜でも見に行こう」と家族と夜の散歩に出かけました。その晩は風もなく、満開で満月の暖かい気候で、桜の並木の下はフワッと桜の香り、つまり「桜餅のような香」に満たされていたのでした。街灯がない場所も満月の明かりに照らされて桜の花が浮かび上がり、なんとも幻想的な夜でした。その後同じような体験をしようと出かけても、なかなかうまくいかず、あの日が幻の夜だったような気がします。満開くらいでないと人間の臭覚では桜の香りを感じることもできなそうですし、少しでも風があると香りは流されてしまい、月の出ない夜はなんとなくイメージが違ふ。来年こそは、桜の咲き具合と気候と月の様子を感じながらまたトライしてみたいと思います。

個人的に、自然の中へのお出かけ(アウトドア)や、言葉の通じない場所や行ったことのない場所へ旅行することが大好きですが、色々なことを知りたい、見たいという好奇心が満たされるのはもちろん、「思いもしなかった出来事をいかに楽しめるか」ということも旅やアウトドアの醍醐味だと思っています。せっかく目指していったのに貸し出し中が見ることができなかつた名画：でもその分とてもすいていて、ゆつくり独占してその他たぐさんの名画を見るのができた有名美術館。雨でぐじよぐじよの地面にテントを張り泥だらけで寝たキャンプ：でも雨上がりの自然の景色は最高で普段見ることができない景色が見られ、泥だらけなんて大したことじゃないんだと価値観も変わったこと。道に迷って出くわした建物、実はあまり知られていない歴史的建造物でなんとなく得をした気分になったこと。挙げればたくさん出てきます。

予想外の出来事がたくさんある世の中ですが、人間が自然とともに暮らしている以上思うようにいかないこともたくさんあるはず。あの晩の桜のようにいつか思わぬ貴重な体験ができるかもしれないし、回り道がかえって素敵な結果を招くこともあるかとも思います。そういえば、ノイエスで長い時間を過ごすようになって、改めて「会場」と「作品」も時間帯やいる人の雰囲気でもまったく違う表情を見せてくれることに気づきました。また、作家さんたちとの出会いやお話によって、作品のことがより深く感じられたり、予想外のことに興味がわいたりします。なかなか遠くへ旅行に行くことhあできませんが、旅や自然との対峙と同じように、アートも私たちにパワーや癒し、そして発想の転換や自由な気持ちも教えてくれると思っています。新しい生活様式の上で、今年も様々な展覧会がノイエスでも県内施設でも予定されていますので、やわらかい心でたくさんものを見ていきたいと思いま

(橋本)

ノイエス朝日(展覧会)のご案内

平出浮足豊 彫刻展 ひとむれ

会期 五月八日(土)～十六日(日)
午前十時～午後五時
会場 ノイエス朝日 スペース1・2

〈企画〉

平田経子展

会期 五月二十二日(土)～三十日(日)
午前十時～午後五時
会場 ノイエス朝日 スペース1・2

〈企画〉

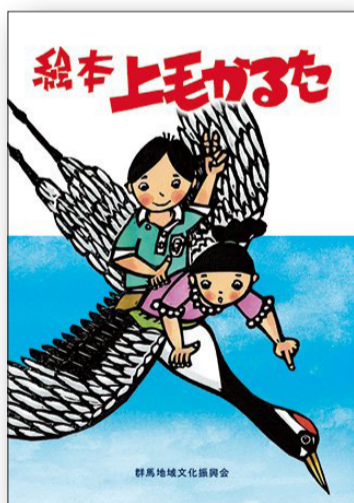
『絵本 上毛かるた』原画展

監修・文…唐澤至朗
版 画…野村たかあき
会期 六月十九日(土)～二十七日(日)
午前十時～午後五時
会場 ノイエス朝日 スペース1・2

〈企画〉

群馬県地域文化振興会より四月に発行された、上毛かるたに描かれているシーンを、楽しくわかりやすい解説とかわいらしい野村さんの版画で紹介する絵本の原画展です。

監修・文…唐澤至朗
版 画…野村たかあき
発行…群馬県地域文化振興会
がんだれ表紙A4判 本文一〇四頁 カラー
価格…二四二〇円(税込み)



群馬県内の展覧会情報

水に浮かぶ島のように

— 館林美術館の20年

会期 四月二十四日(土)～六月十三日(日)
午前九時半～午後五時(入館は四時半まで)

会場 群馬県立館林美術館
〒374-0076 群馬県館林市日向町 2003
tel:0276-72-8188 fax:0276-72-8338

北に多々良川、南西には日本遺産のひとつに認定された多々良沼が位置する、広々とした平地に建てられた群馬県立館林美術館は、まもなく開館20年を迎えます。水田と麦畑が知らせる季節の移り変わりを背に、美術館へと向かうアプローチには、段々に水が流れるカスケードがあり、フアナガンの《鐘の上の野兎》に出会い、私たちはいつもと少し違う空間へと導かれてゆきます。

「自然と人間」をテーマに収集された作品は現在1200点を超えました。そして収蔵品や館のテーマに触発されて数々の企画展を開催、テーマと収蔵品と企画展の3つは分かちがたく結びつきながら時を刻んでいます。

ポンポン、クレール、ピカソ、シャガール、ウォーホル、南桂子、藤牧義夫、戸谷成雄…。ポップで親しみやすい県立館林美術館の収蔵品の中から選りすぐりの約100点を、

この美術館ならではの1つの章構成によって紹介します。また、建設当時の美術館や企画展の記録写真、毎日チェックした新聞・雑誌の切り抜きなどを基に作った年譜によって、美術館の20年を振り返ります。

(館林美術館EPOより)

